

令和8年5月21日

長浜市議会産業建設常任委員会

資料

案件名	所管局・課	ページ
(仮称)小谷城戦国体験ミュージアムの整備について	文化観光課	2

産業観光部

所管委員会	産業建設常任委員会
所管課	文化観光課

(仮称) 小谷城戦国体験ミュージアムの整備について

1. 目的

本市の北国脇往還沿いのエリアには、戦国大名浅井氏の盛衰から、羽柴秀吉による北近江統治に至るまで、名だたる武将が数々の戦いを繰り広げた小谷城跡をはじめ、賤ヶ岳や姉川などの古戦場といった史跡・名所を擁しています。

このような歴史的背景を踏まえ、「長浜市総合計画第3期基本計画」においては重点的に取り組む視点として、また、「長浜市歴史文化基本構想」では、「小谷城・姉川古戦場と浅井氏関連史跡に関する市内外への普及啓発の充実」や「文化財の保存活用を推進するための施設」として、本ミュージアムの整備を掲げています。

これらの方針の実現とともに、少子高齢化や人口減少等が進展する時代において、市民が本市ならではの豊かな歴史文化に触れ、郷土への誇りを育み続けられるよう、教育普及および文化財の保存・活用を推進する「社会教育施設」として、本ミュージアムを整備します。

2. 運営方針

「学び」「体験・発見」「つなぐ」「保存・活用・継承」の4つを柱に、以下の方針で本ミュージアムを運営します。

- (1) 小谷城および浅井三代の歴史をわかりやすく伝え、興味を最大限引き出すため、実物資料にとどまらず、多様な展示手法を検討します。
- (2) 日本五大山城に数えられる小谷城跡を目前に臨む絶好なロケーションを活かし、国内屈指の中世山城の魅力が体感できる施設を目指します。
- (3) 県内外の各自治体や博物館・資料館をはじめ、地域の様々な団体との連携体制を構築し、魅力ある資料館づくりを進めるとともに、地元の語り部や史跡保存団体との協働による住民参加型の事業運営を検討します。
- (4) 史跡の保存や歴史資料の収集など、小谷城跡及び城下町など周辺の歴史に関する調査研究の拠点としての役割を担う施設を目指します。
- (5) 周辺の史跡や名所、観光スポット等をつなぐ面的なガイダンスを行うことで、人々が交流するハブ施設の役割を目指します。
- (6) 市民が郷土の歴史文化に興味や関心を持ち、歴史的資源に親しみ、誇りを感じられるとともに、利用の促進が図れる催事の企画および資料館運営に努めることで、より多くの市民の来訪を目指します。また、本ミュージアムのみならず、市内の博物館・資料館も同様に市民利用拡大に向けた検証を行い、市民に親しまれる博物館・資料館づくりを推進します。

3. 建築概要

整備地：長浜市湖北町伊部（戦国ガイドステーション、浅井三代の里の敷地内）

・小谷城跡を目前に臨む抜群のロケーション

・林道及び登山道の起点であり、小谷城跡への「玄関口」

敷地面積：4,696.71 m²

延床面積：770.22 m²（既存建物改修含む）

建物構造：鉄骨構造平屋建て、耐火構造



▲外観イメージ

4. 諸室概要



▲施設平面図

①映像展示室

当館の導入部となる展示室。浅井三代、お市の方及び三姉妹を取り巻くストーリーを映像で紹介します。歴史に詳しくない人にも親しみやすいアニメーション等を採用し、この地で繰り広げられたストーリーに没入、感情移入してもらうことで、強い関心を引き出します。



②常設展示室

映像展示で関心を引き出したあとに常設展示を観覧することで、史実への理解を深めます。

- ・通史展示とトピック展示を織り交ぜた時系列での解説
- ・浅井家などに関する逸話についての映像展示
- ・模型やホワイトマッピングを用いた展示解説
- ・小谷城史跡から出土した遺物の展示解説
- ・鉄砲などの武器を実際に触れてみる体験展示



③実物展示室

実物の歴史資料（文化財）に触れることで、常設展示で得た知識を実感に変えます。

- ・市所蔵資料を中心とした
様々なテーマでの文化財展示
- ・市内外の博物館、資料館と
連携した企画展示



④ エントランス

室内展示観覧後に本物の史跡を体験するための情報を提供し、フィールドにいざなうとともに、周辺の施設や史跡・名所につなぐハブ機能を持たせます。

- ・小谷山や清水谷周辺から姉川古戦場を含めた広域マップの設置
- ・市内外の博物館、資料館のチラシやパンフレットなどの配架
- ・市内の歴史観光スポットの情報や経路を検索できるモニターの設置



5. イニシャルコスト

(1) 設計費 61,820 千円 (R7.7 完了)

- ・建築設計：42,680 千円
- ・展示設計：19,140 千円

(2) 整備費 約 1,360,000 千円

- ・建設関係：約 926,000 千円 (外構、駐車場等含む)
- ・展示関係：約 309,000 千円
- ・その他：約 125,000 千円 (備品、既存施設解体等)

【財源構成イメージ】

事業費	50%	国交付金
	45%	市債
	5%	一般財源

※国交付金及び市債については、それぞれの対象経費を精査し、最大限活用できるよう努めます。

※市債の元利償還金の50%が交付税措置されます。

※上記(1)設計費及び(2)整備には、一部対象外経費が含まれます。

<参考：地域未来交付金の交付決定状況>

R8 年度：対象整備費	152,200 千円	交付決定額	76,100 千円
R9 年度：対象整備費 (予定)	1,165,736 千円	交付金予定額	582,868 千円

6. ランニングコスト (1年間あたり)

貴重な歴史遺産を保存・継承し、未来世代へとつなげるための教育普及活動を担う「社会教育施設」として適正な運営を図るとともに、本ミュージアムの整備にあわせ、他施設との統廃合を進めるなど、市全体での一体的なコスト管理を徹底します。

(仮称) 小谷城戦国体験ミュージアム収支			
収入	入館料	16,500 千円	…①
	ミュージアムショップ	6,810 千円	
	合計	23,310 千円	
支出	維持管理経費	12,195 千円	…②
	博物館事業費	1,713 千円	
	ミュージアムショップ	4,256 千円	
	人件費	17,500 千円	
	合計	35,664 千円	
収支	①-②	▲ 12,354 千円	…③

他施設との統廃合により、今後不要となる維持管理経費		
小谷城戦国歴史資料館	5,782 千円	…④
文化財保護センター	1,000 千円	
合計	6,782 千円	

実質的な収支 (③+④) ▲ 5,572 千円

※本ミュージアムの入館料は、開館後3年程度を経た、「通常時」の年間入館者目標を30,000人と設定して試算しています。

(大人：27,000人、子ども：3,000人(有料：1,500人、無料：1,500人))

7. 整備に向けた総合的判断について

(1) 国・県との連携

- ・県、米原市、高島市及び本市の4者が共同で進めている、「北の近江振興プロジェクト：滋賀県北部振興事業～課題先進地における地域特性を活かした魅力ある地域づくり事業～」に本ミュージアムの整備が位置づけられています。
- ・整備や運営について、令和5年度の基本計画策定中から現時点における設計段階まで、国及び県と協議を重ねながら丁寧に進めてきました。
- ・整備後も、展覧会や講演会等イベントでの連携や共同企画の実施など、運営においても国、県及び関係市との関係を深めることで、本ミュージアムの付加価値を高め、北部地域振興の一翼を担います。

(2) 財源の確保

- ・県および3市で進める「北の近江振興プロジェクト」について、令和8年度の地域未来交付金(内閣府)の交付決定(R8.3.31付)があり、本ミュージアム整備の財源を確保できました。また、交付金と併せて有利な市債(合併推進債)を活用することで、可能な限り財政負担の軽減を図ります。

(3) 賑わいの維持・創出

- ・現在開催中の北近江豊臣博覧会で醸成される賑わいを維持し、継続して「戦国の聖地・長浜」をPRすることができます。
- ・本ミュージアムは、北は賤ヶ岳から南は姉川まで、戦国時代の名所・史跡が連なる北国脇往還沿いのほぼ中心に位置し、各所をつなぐハブ機能や、「戦国ベルト地帯構想」の中核機能を果たすことが期待できます。

- ・史跡小谷城跡の整備（令和7～8年度整備基本計画の改定、令和9年度基本設計・令和10年度実施設計）との相乗効果が期待できます。ホンモノの山城を紹介する本ミュージアムがあることで、戦国の聖地である本市の魅力が更に高まり、より効果的に発信できます。
- ・現在、誘致活動を行っている「石田三成」を題材とした大河ドラマの放送が決定した際には、戦国をテーマとする本ミュージアムを拠点とした観光客の周遊の促進が期待できます。

（4）市有施設の集約・統廃合の促進

- ・長浜市歴史文化基本構想（R2.3 策定）及び長浜市公共施設等総合管理計画において定める今後の博物館・資料館のあり方に基づき、本ミュージアムの整備に併せ、「小谷城戦国歴史資料館」および「文化財保護センター」の廃止・解体を行います。

8. 今後の予定

令和 8年	5月	産業建設常任委員会 説明
	6月	補正予算上程（債務負担行為）
	7月	入札公告
	9月	契約議決 補正予算上程（実行予算化）
	10月	ミュージアム建設開始
令和 9年	3月	当初予算上程（ミュージアム関係費用、旧施設解体費用）
令和10年	3月	ミュージアム完成
令和10年度初旬		ミュージアムオープン

【参考】これまでの経過

- 平成26年9月 小谷城址保勝会、小谷地区地域づくり協議会、小谷城戦国歴史資料館友の会の3者連名による「小谷城戦国歴史資料館の移転・新築」にかかる要望書の受領
- 平成27年11月 東浅井商工会による「小谷城戦国歴史資料館の移転・新築」にかかる要望書の受領
- 平成29年9月 東浅井商工会、長浜観光協会、奥びわ湖観光協会との歴史文化基本構想にかかる意見交換会
- 平成30年11月 東浅井商工会、小谷城址保勝会、長浜観光協会との歴史文化基本構想にかかる意見交換会
- 平成31年1月 東浅井商工会、小谷城址保勝会、小谷地区地域づくり協議会、長浜観光協会との歴史文化基本構想にかかる意見交換会
- 令和元年5月 東浅井商工会、小谷城址保勝会、小谷地区地域づくり協議会、長浜観光協会との歴史文化基本構想にかかる意見交換会
- 令和2年3月 長浜市歴史文化基本構想策定（同年2月委員会報告）
直営施設を「長浜城歴史博物館」、「(仮称)小谷城戦国体験ミュージアム（以下「戦国体験ミュージアム」という。）」、「(仮称)観音文化の里ミュージアム」に再編する方針を決定
- 令和2年8月 長浜市商工会、小谷城址保勝会、小谷地区地域づくり協議会、(公社)長浜観光協会の4者連名による「戦国体験ミュージアムの整備に関する提言」の受領
- 令和5年6月 産業建設常任委員会報告
「戦国体験ミュージアム」の整備にかかる構想について
- 令和6年3月 3月定例会議会「戦国体験ミュージアム」の建築設計・展示設計にかかる債務負担行為設定の上程・議決
- 令和6年6月 建築設計・展示設計業務委託契約の締結
株遠藤克彦建築研究所 42,680千円（建築設計）
株丹青社関西支店 19,140千円（展示設計）
- 令和6年9月 9月定例会議会「建築設計の前金払分」にかかる補正予算の上程・議決（12,804千円：3割分）
- 令和6年10月 内閣府、滋賀県及び本市による「戦国体験ミュージアムの整備」にかかるデジタル田園都市国家構想交付金申請のための協議
- 令和7年2月 産業建設常任委員会報告
「戦国体験ミュージアム」の基本設計の概要について
- 令和7年2月 滋賀県が本市、米原市及び高島市との共同事業として「北の近江振興プロジェクト：滋賀県北部振興事業～課題先進地における地域特性を活かした魅力ある地域づくり～」にかかる「新しい地方経済・生活環境創生交付金（以下、「第2世代交付金」という。）」を内閣府に申請

- 令和7年3月 3月定例会議会「戦国体験ミュージアム」の建築設計・展示設計にかかる予算の上程・議決
 (株)遠藤克彦建築研究所 29,876 千円 (建築設計)
 (株)丹青社関西支店 19,140 千円 (展示設計)
- 令和7年4月 令和7年度第2世代交付金の内示
 「戦国体験ミュージアムの整備」にかかる内示額：5,270 千円
- 令和7年7月 産業建設常任委員会に進捗報告
- 令和7年7月 「戦国体験ミュージアム」の建築・展示実施設計完了
- 令和7年12月 第2世代交付金の計画変更申請
- 令和8年3月 令和7年度地域未来交付金（旧第2世代交付金）の交付決定
 滋賀県北部振興事業～課題先進地における地域特性を活かした魅力ある地域づくり～ 交付決定額：140,760 千円
 ※上記のうち「戦国体験ミュージアムの整備」の交付決定額：76,100 千円